



72
835
3

病學通論卷之三目次

疾病總論 第二

疾病統別

真別

假別

部位區別

汎發病 局發病 內病 外病 自患病

交感病 半身病 定處病 遊移病 內陷病

單複區別

單病 複病 合併病

經過區別

病學通論卷之三目次

通病



91-1846

久暫區別

急病 熱性病 慢病

進退區別

暫留病 往來病 間歇病

時期區別

初期 進期 極期 退期

分利 散渙 屈留實達 古究室阿

吉利濟 分利日

歸終區別

治癒 自然良能 轉徙 變形 再發 死

病性區別

重病 輕病 善性病 惡性病 頑性病

治病 不治病 死病 有利病

由來區別

遺傳病 先天病 後天病 根病 屬病

流行病

英堙密 越必堙密 越必堙密性

時令越必堙密 留淹越必堙密

傳染病 散在病

Blank page with vertical lines for text.



病學通論卷之三

足守 緒方 章 公裁 譯述

疾病總論 第二

疾病統別 アルゲメル子フルテ

凡百疾病ヲ統括メ之カ區別ヲ立ルニ二法アリ

一 生力病。凝體病。流體病等ニ分カ如、其本體ニ因

テ分ナリ是ヲ **真別** フルセレインゲト謂、一部位

單複經過病性。由來等ニ隨テ分ナリ是ヲ **假別**

フルリゲ、フルト謂、而察病施治ノ際ニ在テハ假

別殊ニ最要、先務トス

部位區別

汎發病 アルケメー子 局發病 ブラーイキレイ 汎病 汎

總身ニ發スルヲ汎發病ト名ケ一器一系ニ發ス

ルヲ局發病ト名ク 諸器相連テ一運管ヲ為ス者

胃大小腸ヲ統テ之ヲ消食一系トシ心肺蓋夫生

動靜脈ヲ連テ之ヲ血行一系トスルカ如 力ハ總身一體ニメ諸器互通シ運管交感ス病局

發スルノ理無ニ似タリ然レ體中各器感應性ヲ

異ニシ抗抵情ヲ同セス 前亦局發無ハアラス故

ニ此器害ヲ被レハ獨抗抵メ彼器之ヲ知サル者

アリ或一系ニ在テ有害病毒タルモ總身ニハ然



一サル者アリ喻ハ徽毒初起唯感染ノ部ヲ侵シ其

蔓延スルニ及デモ亦唯粘液膜骨膜等ヲ襲テ内

藏血液ハ害ヲ被サルカ如シ所謂汎發病亦其因

一器一系ニ在者居多而其總身ニ現スル所以者

ハ有形與奪無形交感ニ在リ有形與奪ハ胃腸病

乳糜製造ヲ妨ケ肺病酸素布化ヲ碍テ以テ總身

ノ榮養ヲ奪ヒ或胃腸不和未熟液ヲ生シ肺藏潰

瘍敗汚膿ヲ釀シ以テ總身ニ病毒ヲ與ルカ如是

ナリ無形交感ハ胃腸ニ毒有テ總身發熱シ蛔蟲

刺衝四肢ニ麻痺痙攣ヲ起スカ如是ナリ是故ニ

刺衝過劇ナラス交感已甚ナラス患部運營總身
ニ管セス總身感動敏銳ニ過サレハ病多ハ一處
ニ局スル者トス

輓近病學家人身諸器ヲ統テ之ヲ三系ニ繫ク
乃腦脊髓神經ヲ覺系スゲフーリゲト名ケ心肺

脈筋ヲ動系スプリケルバルト名ケ腹藏乳糜道

榮養管ヲ養系ゲレプロデュセルト名ク而局發病

亦此三系ニ隨テ區別セリ生力運營ヲ統テ此

三機覺機動ニ配スルハ固當リ然ト雖凡諸器

ヲ以テ之ニ配スルハ抑牽強附會ニ屬ス況ヤ

疾病ニ於ルヲヤ今夫血脈ノ如之ヲ動系ニ屬

スト雖凡實ニ榮養ノ要器ナリ乃其病亦豈養

機變ニ非ルヲ得ヤ又胃腸ハ養系ニノ嘔

逆疼痛等常ニ動覺兩機ノ病ヲ現シ腦ハ覺系

ニノ焮衝水腫等動機養機ノ病ヲ發ス且局發

焮衝ノ如ハ覺疼痛動養腫三機ニ罹ル其之ヲ

何ニカ配セシ

内病インタング外病オウトン病内外ニ

分ハ猶之ヲ汎發局發ニ分カ如シ外病必皮表ニ

位ノ總身ニ係サルニハ非ス卻テ内部病ヨリ岐

スル者居多故ニ外病外用藥ヲ必トシ内病獨内藥ノ主ル所ト意ヲ勿レ内外交療術ヲ互ニセサレハ其治ヲ得サル者鮮カラス

自患病 エイケンレイデ 交感病 メーレイデン

凡病其因ノ所在ニ現スルヲ自患病 本ト名ケ病

因這部ニ在_レ交感ノ那部ニ現スルヲ交感病 標

ト名ク腹藏壅塞ヨリ發スル狂疾蛔蟲ヨリ起ル

癩癩ノ如_キ乃_チ交感病ナリ

半身病病左右劇易ヲ異ニスル者或唯半身ニ發

メ半身患無_キ者是ナリ乃_チ麻痺癱攣皮疹頭痛膝痛

等ニ於テ常ニ見カ如_シ或偏身瘡ヲ發メ偏身麻

疹ヲ患ル類アリ皆是_レ一身神經左右各感動ヲ異

ニスルニ係ル者トス又腦脊髓ノ左側ニ病アレ

ハ右身麻痺癱攣等ヲ發シ右側ニ在_レハ左身患證

ヲ生_レ不是神經始テ出_ル所ノ處ニ於テ左右互ニ

相_レ義メ而_シ右ニ出_シ者ハ左身ニ循リ左ニ出_シ者

ハ右身ニ行_クハナリ

定處病 フストシテン 遊移病 オムズケルエン 内

陷病 テヒグテレ 終始一處ニ定住メ移動セ

サル者ヲ定處病ト名ケ彼此ニ遊走メ處ヲ移ス

者ヲ遊移病ト名ケ外表ニ位セル者轉メ内部ニ
陷者ヲ内陷病ト名ク共ニ又部位ニ隨ノ區別ニ
屬ス

單複區別

單病 エーニホウヂ 複病 ルサレメシキゲステ 合併病

デ、シ一ケウケル病因一器一系ヲ侵テ患證純然無

雜ナル者ヲ單病ト名ケ病因一ナレモ諸器ヲ侵

テ諸種ノ患證ヲ現スル者ヲ複病ト名ケ 毒、骨痛

潰瘍肺焮衝等 ヲ併セ起カ 病因各異ニメ異種ノ患證混同シ

發スル者ヲ合併病ト名ク蓋人身諸器連續メ運

營貫通ス故ニ病居然トメ獨一器ヲ侵テ止者ニ

非ス乃所謂單病ナル者實ニ希ナル所以ナリ

經過區別

經過 ハ 疾病ノ久暫 ル 進退 リ 結果トモ時

期 テ 歸終 ガ 等ヲ總ル名ナリ故ニ此區

別ニ係ル者甚況シ

其一久暫區別

急病 ハ 慢病 ス 經過短速ニメ

其死スルト治スルトヲ論セズ速終ニ歸スル者

ヲ急病ト名ケ之ニ反スル者ヲ慢病ト名ク而急

病ハ大率皆熱證ヲ兼故ニ亦熱性病

ノ名アリ 經過短速者必熱ヲ兼ルニ非ス緩急病

四日ニ終者ヲ最急 テ終始發熱スル者アリ 七日ニ至者ヲ

甚急 ヘテト名ケ二三週者ヲ常急 ヘテト

名ク而其四十日ニ至者ハ假令劇證アルモ之ヲ

慢病トス但其外見急病ノ如ク得者ハ之ヲ假急

シケイニバト名ク病慢急ヲナス所以種種アリ

一病ノ素性ニ由生力ヲ擾亂シ溫素ヲ煽動スル

一急劇ナルカ或之ヲ抑頓シ若ハ之ヲ減卻スル

一暴卒ナル病ハ皆其經過迅速ニテ躊躇スルノ

暇ナシ乃熱病焮衝痙攣搐掣昏睡卒倒等ノ如シ

而之ニ反スル者ハ之ニ反ス二病ノ劇易ニ由輕

易ノ病ハ治シ易ヲ以テ固久ヲ瀰ラス過劇ノ病

亦生力虚脱スルヲ速ヲ以テ其經過短シ故ニ病

遷延瀰久スルハ大率劇易中等ヲ得者ニ在トス

三病ノ位地ニ由病同一ナレ氏其侵ス所器同カ

ラサレハ其慢急ヲ等セス喻ハ骨焮衝緩慢ニメ

肺焮衝急劇ナルカ如シ四體ノ強弱ニ由體力較

強ケレハ病敵ヲ拒ムヲ久ニ堪テ其經過自日ヲ

延生力極テ弱ケレハ速ニ陷没メ其病持久スル

一ヲ得ス

其二進退區別

替留病

ア、シ、ン、ホ、ウ、デ、ン

往來病

ナ、シ、ラ、キ、テ、ン

間

歇病

デ、シ、ン、キ、テ、ン

病證終始間斷ナク荏苒陸

續スル者ハ之ヲ替留病ト名ク然レモ若ク一向ニ

替留持重スル者ハ甚罕ナリ夫替留熱ノ如キモ漸

進テ最極ニ至リ漸退テ終末ニ歸ス且一日間猶

多少ノ張弛アリ唯其進退往來病ノ如較著ナラ

サルノミ但形質缺損大ニメ生力衰弱甚キ者ハ

其病卻テ荏苒瀰久スルヲ得按ニ麻痺水腫等類之ニ屬ス

往來病ハ其證時ニ著降退シ時ニ著升進スル者

ヲ謂而其升進大抵晚ニ於テス日晡潮熱ノ間歇

病ハ其進退最著ク退時ハ諸證全去テ若干時間

休歇スル者ヲ謂其發歇時刻整然トメ一定セル

者アリ然ラサル者アリ或毎日一發二日一發三日

一發一週一發一月一發一年一發春秋一發者ア

リ或廿發スル毎ニ時刻進者後者二發重複スル

者アリ病右ノ如時期ヲ差ヘス次序ヲ紊ラス發

歇往來スル所以體內ニ在テハ生力衰盛病毒聚

散抗抵常習等之カ因トナリ體外ニ在テハ地球

轉一書夜 大陰一周月一四時ノ運。五星ノ行等ノ力

原トナル。且、實驗ニ由テ之ヲ觀。一、間歇諸病。因

ハ大抵皆腸胃若、ハ他腹藏ニ在者ナリ。或云間歇

者、志ナル者多シ而、腦神經ニ係ル者アリト

凡、萬物。日月星辰ノ運行ニ感メ變化ヲ致サ、

ル者有、ナシ乃、介虫ノ肉。月ト迭ニ盈虛シ合

歡ノ葉。日夜ニ寤寐シ草木ノ莖葉花實鳥獸ノ

孽尾孕胎。時令ニ隨等一、枚舉ニ違アラス人身

萬有ノ一ナリ故ニ其運營時ヲ守リ變化期ヲ

愆ラサル亦、多、此感應ニ在、トス然、其原由體內

ノ機ニ係ル者ハ左、三件ニ在リ

生力衰盛抗抵過劇ナレハ感應力必、罷弊ス罷

弊スレハ刺衝物留在スル所之ニ抗抵スルヲ

能ハス且、其罷弊ヲ復メ故ノ抗抵ヲ發セン

ハ必、若干時ノ休息無、ハアラス猶、勞動過度ニ

メ筋力罷弊セル者若干時ノ休息ヲ得テ更ニ

初力ニ復スルカ如シ

病毒聚散抗抵強、發スレハ病毒之、力爲、ニ散換

ス散換スレバ其力、感應力ヲ挑、ニ足スメ抗抵

自、歇ム而其毒更ニ復、聚積メ故ノ刺衝ヲ爲、ニ

ニハ又必若干時ノ際無ハアラズ喻ハ痔血月
經等一泄ノ後血液故ニ復メ復漏泄スルニハ
必一定ノ時日ヲ以テスルカ如シ
抗抵常習抗抵若干時ヲ間テ發動スルヲ數ス
レハ後終ニ常習トナリ刺衝ノ有無ニ拘ラス
メ同時刻ニ同抗抵ヲ發ス喻ハ連夜時ヲ定テ
人ヲ喚寤スレハ後其打起ヲ待ス時ヲ刻メ自
醒覺スルカ如シ故病證發歇常習ニ係ル者殊
ニ多シトス

其三時期區別

初期 ベシ 進期 ツ 極期 ホ 退期 ア

病初未一定ノ形模ナシト雖凡其將ニ發セント
スルノ證候ヲ現ス此間之ヲ初期ト謂而凡急發
病ニ於テハ此期ナキ者多シ且其未患トスルニ
足サルヲ以テ病者大抵之ヲ知ス進期ハ病既ニ
發メ諸證漸加倍シ諸患益増進スルノ間ナリ極
期ハ其増進已甚ノ極ナリ退期ハ極期ヲ過テ復
治ニ至マテノ謂ナリ此時較然タル一種證候ヲ
發メ諸患頓ニ脱スル者アリ之ヲ分利シキリト謂
或緩緩慢慢漸ヲ以テ退者アリ之ヲ散換シレト

謂凡病熱性ニメ生力活潑ナル者醫治攝生誤ト
 キ者ハ分利ヲ以テ解シ生力虛弱ニメ熱性ナラ
 ス遷延彌久スル諸病及輕易ニメ刺衝至微ナル
 諸患ハ散渙ヲ以テ了者トス○凡病^殊進期極
 期ニ當テハ刺衝已甚シテ生力頓挫シ抗抵擾紊
 シテ分泌閉塞シ^{或ハ全其}機^錯内刺衝物^{血液}等其常性
 ヲ失フ古人之ヲ斥メ^{屈留實達}未^熟ト名ク退期
 ニ於テハ擾紊セル抗抵降鎮メ漸平全ニ歸シ閉
 塞セル分泌寬解メ徐常機ニ復シ病毒緩融シテ
 分利ニ適スルノ度ヲ得ニ至ル之ヲ^{古屈室阿}熱^息

義ト名ク是時ニ當テ一種ノ劇證ヲ發シ以テ生
 力運營總身對稱シ過剩害物諸竅ニ排泄ス之ヲ
 吉利濟^{分利}ト名ク而^義其害物ヲ排泄スルハ大抵
 出血發汗利尿嘔吐下利吐痰流涎等ヲ以テス○
 分利亦一定ノ日期アリ其期固各病ノ性ニ準ト
 雖^凡大率四日七日ノ數ヲ以テス乃病初第七日
 第十一日第十四日第廿一日ニ於テスルヲ常ト
 ス之ヲ分利日^{スキダリ}ト謂然^凡亦稟賦體質氣候
 醫治攝生等各異ナルニ隨テ遲速少差ナキヲ能
 ハス

古人謂病皆毒有テ發ス病初ニ於テハ其毒未
熟セスメ之ヲ外泄スルニ適セス故ニ生力先
大動亂ヲ起テ之ヲ烹釀セントス是屈留實達
ナリ而後其化熟古屈ヲ待テ之ヲ體外ニ排泄
ス是吉利濟ナリト輓近病學家云病皆抗抵變
動ノミ所謂病毒ナル者有ニ非ス夫病末ニ排
泄スル物質ハ皆其變動ノ餘弊ニ成ル者ナリ
喻ハ嫩衝後ノ吉利濟ハ唯抗抵降鎮ノ動亂復
膿液ノ如シ治スルヲ斥ノミ其時ニ現スリ劇證ハ生力運
營對稱セシカ爲ニ發スル一種ノ抗抵ナリト

按病固抗抵變動ニ發メ毫末ノ毒有トナキ者
少カラス此ノ如者ニ於テハ烹釀排泄共ニ要
ナラス其吉利濟唯抗抵ノ降鎮ニ在ノミ且假
令毒有テ發セル病モ烹釀化熟ノ時ヲ經ラ俟
ス速出血吐下等ヲ發メ頓ニ寛解スル者アリ
新說理有然ト雖凡實ニ其毒ヲ具ルテ顯然タ
ニ似タリル病亦多シ此ノ如ハ抗抵ノ降鎮ヲ以テ分解
スルヲ能ハズ必烹釀排泄無ハアラス且原來
毒無メ發セル病モ分泌閉塞ノ廢液鬱滯シ或
抗抵變態メ異常ノ物質ヲ生シ以テ病毒トナ

ル者アリ是素病ノ餘弊ニ成ト雖比逾病體ヲ
苦テ更ニ患證ヲ持久セシム故其排泄ナクレ
ハ其病治スルヲ得ス古說亦是故ニ疾病ノ
眞理ヲ究ント欲スル者ハ偏ニ生力ノ機ニ拘
泥セス強テ物質ノ變病ニ凝滯セヌ兩原生カ
ヲ合メ一層ノ工夫ヲ下サントヲ要ス

其四歸終區別

治癒 シゲヨ 轉徙 フルグラ 變形 フルムフルア 再

發 ルイ 死 ドド 治癒ハ病十全分利ヲ得テ病

機全止病毒悉盡運營對稱メ總身健康ニ復スル

ノ謂トリ凡活體ノ性タル醫治ヲ須ス自病敵ヲ
退テ平常ニ復セントスルノ妙機ヲ具之ヲ自然

良能 ゲ子 ト謂其妙用究ヘカラスト雖

畢竟三機ニ成ル外來ノ感動アレハ其有形無形

ヲ論セス生力必抗抵メ之ヲ防拒ス感應ナリ

體中異常ノ物質アレハ其内生外來ノ別ナク或

化メ自家同質者ト爲シ或排メ之ヲ體外ニ擯斥

ス資成ナリ運動激發メ生力費耗シ物質缺乏

スルト有ハ抗抵必暫休止ス抗抵其休止ノ間得

ル所ノ榮養更ニ其質ヲ補ヒ其力ヲ復スルニ足

三十一 故二所謂自然良能ハ乃是人身固有ノ生
力運營ナルノミ故ニ今同一病諸家治法ヲ殊ニ
シ或功力全相反セル藥劑ヲ投メ共ニ其治ヲ得
テアリ若夫良能無ハ何能然テ得ニ實ニ不可
測ノ妙機ナラスヤ

轉徙ハ病其處ヲ轉徙シテ現證自退クヲ謂疥癬
散メ肺勞發シ脚痛轉メ胃痛起ルカ如是ナリ或
一部膿腫潰瘍瘡疹壞疽等ヲ發メ總身病痊ルカ
如モ亦此ニ屬ス原是所謂分利ハ一機ニメ只其
不正ナル者ナリ故ニ其期ニ先テ之ヲ妨ル事故



攝生不良醫藥誤用等

有シ者多ハ此轉徙ニ罹ル

或云轉徙ハ皆病毒吸收管ヲ經テ血中ニ入り
或蜂巢質ニ傳テ他部ニ輸ル者ナリト之ヲ實
驗ニ徵スルニ果メ然ル者少カラス乃這部ノ
膿腫分消メ那部嫩衝ヲ發スルヲ無ニ俄然ト
メ其膿ヲ泄スル有カ如シ精微病毒ニ至テハ
其流注視可ラスト雖此亦此傳送ナシト謂ベ
カラス然レ轉徙悉皆傳送ト意テ勿レ又夫對
稱機及襲替分泌ノ所為ナル者鮮トセス
變形ハ其處ヲ徙サス唯其形ヲ變スル者ナリ而

其變ニ成ル者ヲ繼病オフ後ニ舉ルル屬病亦此類ナリ
ト名ク此病其種子ヲ本病ニ胎ム者アリ結膿シ
焮衝熱ノ腐敗熱ニ其因ヲ本病ノ餘弊ニ資者アリ
移ルカ如ク是ナリ其因ヲ本病ノ自性ニ任テ適當
リ按ニ焮衝後ノ硬腫是其病ノ自性ニ任テ適當
蓄水等ノ如ク是ナリ
ノ治ヲ怠ルニ由リ或攝生不良醫藥誤用病毒加
増等ニ由テ十全分利ヲ得サルニ因ル
再發ハ病證既ニ退テ後再前患ヲ發スルヲ謂是
痊癒未全カラスメ殘孽仍體內ニ潛伏セル者所
因有テ要ニ發動スルナリ夫病後衰弱感應過敏
等ノ如ク乃此殘孽ニ屬ス而諸病大率感應力過敏

ヲ遺サハル者少シ其過敏殊ニ再發若ハ他病ノ因ト
ナル

死ハ生力減卻メ運營過絶スルナリ是病貴要ノ
器腦、肺、心、神、經、血脈等ヲ犯テ其機關ヲ隕スニ因或血及諸
液ノ脱泄腐壞太甚メ榮養ヲ失ニ因或刺衝物毒
類直ニ生カヲ襲テ之ヲ奪卻スルニ因或病機抗
抵暴劇ニ過テ生機運營否塞スルニ因等ナリ

第四病性區別

重病	ズワレシ	輕病	リグテシ	善性病	グドア
シキ	キテシ	シドア	キテシ	ハルダ	ケア
テシ	シ	シド	キテシ	ケシ	ケシ
テシ	シ	シド	キテシ	ケシ	ケシ

ニキテ 凡、發證饒多ニメ過劇ナル者、其危險ヲ兼ル
 ト否ルトヲ論セス之ヲ重病ト名ケ其輕易ナル
 者、之ヲ輕病ト名ケ假令、重病ト雖凡危險ノ證ナ
 ク醫治適當スレハ治スヘキ者ヲ善性病ト名ケ
 外候輕易ナルカ如、ニメ不慮危險ニ進ミ精力卒
 ニ脱スル者ヲ惡性病ト名ケ而、既ニ試驗ヲ歷シ
 對證、諸藥皆功ヲ奏スルヲ能、サル者ヲ頑性病ト
 名ク

治病

ケ、ゲ子、シ、レ、イ、キ、テ、ン、イ

不治病

イ、オ、ン、ゲ、子、レ、シ、キ、テ、ン、レ

死病

ド、シ、レ、イ、ケ、不治病ハ、瘡、ル、ヲ、能、サル、病、ナ、リ、死
 シ、イ、キ、テ、ン、

病ト別アリ全然不治者アリ術ヲ以テスレハ救
 へク自性ニ任スレハ治ス可、サル者アリ或僅ニ
 治スヘクメ全、治ス可、サル者アリ死病亦、必死者
 アリ速、之、ヲ、救、ハ、生、ヘ、キ、者、アリ本來死ス可、ニア
 ラス偶來ノ事故ニ由テ死ヲ致、ス者アリ

有利病

一掃メ患者ニ利有者是ナリ諸證強盛ニメ自然
 良能、力雄健ナル諸病多、此ニ屬ス是、其、激、動、ニ、由
 テ潛藏ノ病毒ヲ外泄シ要器ノ疾患ヲ導
 去スルヲ得ハナリ

第五由來區別

遺傳病

シエルクレインク

先天病

アインゲボイレ

後

天病

フシルケレイング 遺傳病ハ賦生ノ始ニ於テ父

母ノ病ヲ其體ノ質中ニ稟受セル者ナリ先天病

ハ既ニ胚渾トナリシ後胎内ニ於テ自得シ病ナ

リ而分娩已後得所ノ病皆之ヲ後天病ト名ク

根病

オイルスプロシク

屬病

アフケレイテ 根病

ハ本根病ナリ屬病ハ從前一病有テ之ニ從屬シ

來リ更ニ自家一病ヲナス者ナリ乃焮衝後ノ膿

瘍肝病後ノ腹水ノ如シ交感病ト別アリ

交感病ハ常ニ

本病ト相關係ス故ニ自家一病トナス

流行病

ヘイルセシテ

傳染病

バスノテレイ

散在

病スホラヂセ流行病ハ一般流行ノ齊ク衆人ヲ

患シムル者ヲ謂而其風土ニ關ル者ヲ英埜密ト

名ケ天行ニ係ル者ヲ越必埜密ト名ク

英埜密ハ一地ノ固有病ニメ多少常ニ流行ス是

其地ノ風土氣候飲食攝生人情等他邦ニ異ナル

所有ニ由ル乃溼地ノ間歇熱海濱ノ失苟兒陪苦

ポール名國ノ糾髮病熱國諸島ノ發黃熱等ノ如

越必埜密ハ其地ノ異同ヲ問ス流行スル病ナリ

是一時衆人ヲ一般ニ襲所ノ病因有ニ由其因特
ニ大氣變革 寒溫燥濕疎密輕重及其質ノ變 若ハ兵亂饑饉等ニ

在者アリト雖凡亦人智ノ未全明ム可ラサル者多シ

而其流行時ニ當テハ假令其病ニ罹サル者其生

力之カ爲ニ一種性ヲ得之ヲ越必埤密性 エビゲテ

ステルドト名ク故ニ當時患ル所ノ他諸病多少

其性ヲ挾サル者鮮シ ハ同ハ越必埤密性ナレ

焮衝性ヲ帶ルカ

越必埤密亦時令越必埤密 セエイルデミイキ 留淹越

必埤密 エスビゲテ 二般アリ時令越必埤密ハ

歲歲時令ヲ定テ流行スル者ヲ謂乃春ハ儂麻質

夏ハ膽液病秋ハ粘液病冬ハ焮衝病流行スルカ

如是ナリ然レ其流行各國風土ノ異同氣候變革

ノ早晚當時流行ノ諸病等ニ準テ又差等無ク能

ハス留淹越必埤密ハ時令ニ拘ラス年月ヲ定メ

ス數月數年連綿メ流行スル病ナリ 時令ニ隨テ代換セヌ若

ヲ以テ此名アリ 其流行始微ニメ漸盛ナルノ

極ニ至リ後又漸退キ終ニ全消失メ他越必埤密

ト交代ス或其始極テ太甚後漸衰ル者アリ淹留

越必埤密ノ原因固體外ノ變ニ感メ生力一種ノ

病學通論 卷之三 十七

變態ヲ得ニ由ト雖凡其病時令ノ候。天氣ノ變ニ
係ルト毫之ナキ者アリ故ニ大氣質中測知可サ
ル一種ノ變動有ニ由ト然凡其流行或年月ヲ
定テ循環シ來ル者アリ或風土ノ異。時候ノ變ヲ
擇ハス同一ノ經過ヲ遂ル者アリ且人獸其流行
ヲ共ニセサル等ヲ以テ之ヲ觀ハ其原大氣質中
ニ在ト云モ亦信シ難シ或云人身感應力極テ精
敏ナルカ故ニ獨天地日月星辰ノ運行ニ感動メ
然ル者ナリト之ヲ要スルニ畢竟不測ノ因ニ屬
スルナリ

留滯起必埤密ノ性ヲ挾ムハ熱性諸病ナラス
慢病亦然唯其較著ナラサルノミ然凡同時諸
病咸必之ヲ挾ムニハアラス間亦全之ニ關係
スルト無者アリ

傳染病ハ英埤密越必埤密ト自其原ヲ異ニス
原來體液變常ヨリ毒ヲ生シ衆人相傳テ感染ス
ル者ナリ病機抗抵第十九則然凡始天然流行病ニメ後遂
ニ傳染病トナル者亦鮮カラズ
散在病ハ流行病ニモ非ス傳染病ニモ非ス世間
ニ散在セル各人各病即尋常雜病ノ總稱ナリ

諸病又男女稟賦體質年齡衣食生產等二準、區別アリ亦察病施治必究ノ要務ナリ然、此是多、八病ノ素因ニ歩ルカ故ニ病因編ニ論載ス



發行

書肆

同	同	大坂	同	若山	同	東京	京都
河内屋卯助版	河内屋重助	河内屋喜兵衛	本屋文助	帶屋伊兵衛	山城屋佐兵衛	須原屋茂兵衛	山城屋勘兵衛

